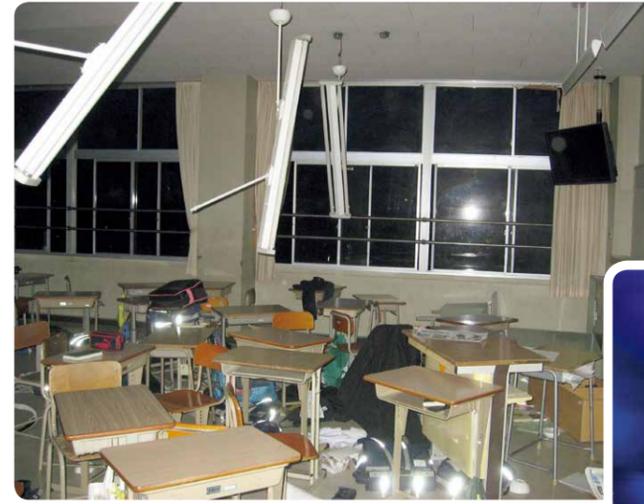


# みらい 未来へのきずな

## みやぎ防災教育副読本

小学校1・2年



### 「未来へのきずな」

初版発行：平成27年3月11日

発行 宮城県教育委員会

監修 東北大学 災害科学国際研究所  
教授 今村文彦



宮城県教育委員会

海<sup>うみ</sup>

きれいな海

およぐときもちい海

しんさいの後<sup>あと</sup>よごれてしまった

でもくらげが元<sup>げん</sup>気<sup>き</sup>におよいでいた

魚<sup>さかな</sup>も元<sup>げん</sup>気<sup>き</sup>におよいでいた

こわい顔<sup>かお</sup>の海も あるけど

海<sup>うみ</sup>が 大<sup>だい</sup>すき

早<sup>はや</sup>くもとのきれいな海に

もどくし いいな

# みやぎの子どもたちへ

へいせい ねん がつ にち こご し ぶん  
平成23年3月11日 午後2時46分

おお じしん  
大きな地震がおきました。

そして、うみから大きなつなみが  
む向かってきました。

その津波で、たくさんの

たいせつ いのち  
大切な命がうばわれました。

わたしたちは、これからずっと

ひがしにほんだいしんさい  
東日本大震災のことをしっかり聞いて、

わすれないようにしなくては いけません。

大切な命を守るため、

みやぎけん  
宮城県では、

みやぎぼうさいきょういくふくどくほん みらい  
みやぎ防災教育副読本「未来へのきずな」を  
つくりました。

せんせい とも か  
先生や友だち、家ぞくといっしょにべんきょうして

しょうらい どのようなさいがい  
しょうらい どのような災害があっても

かならず い生きぬきましょう。

2015 (平成27) 年3月11日

みやぎけんきょういくいんかい  
宮城県教育委員会



# 未来へのきずな

## 目次

### ●海

宮城の子どもたちへ ..... 2

### 第1章 3.11をわすれない

1. 東日本大震災をわすれない ..... 6

### 第2章 災害について知る

1. 家で話を合おう ..... 8

2. 地震 ..... 10

●ぼくとじしん ..... 12

3. 津波 ..... 14

●こわかった大しんさい ..... 16

4. 空のようすがかわったら ..... 18

### 第3章 自分の身は自分で守る

1. 学校に いる ときに 地震が おこったら ..... 20

2. 家に いる ときに 地震が おこったら ..... 22

3. 外に いる ときに 地震が おこったら ..... 24

4. 海の 近くに いる ときに 地震が おこったら ..... 26

◆高台に あがれ! ..... 28

5. 黒い 雲が 近づいて きたら ..... 30

### 第4章 助け合い・共に生きる

1. 助け合っ て 生活する ために ..... 32

●ぼくと お父さんの ボランティアかつどう ..... 34

### 第5章 公の支援と備え

1. 学校内の 命を 守る ものを さがそう ..... 36

2. わたしたちを 守る 地いきの 人々 ..... 38

### 第6章 心のケア

1. かなしい とき こわい とき ..... 40

### 第7章 生き方を考える

●かせつじゅうたくを 作る しごと ..... 42

未来に 向かって ..... 44

●あたりまえ

●の印がついたページは「作文宮城 60号 特別編『あの日の子どもたち』」に掲載されている作品（作文・詩）です。

◆の印がついたページは、東日本大震災のときに避難行動をとった実際の物語です。

# 1. 東日本大震災を わすれない

2011 (平成23) 年 3月 11日  
午後2時46分

宮城県の太平洋沖で  
とても大きな地震が おきました。

津波が おしよせた  
学校も ありました



写真提供: 大崎タイムズ社



学校も 避難所になりました

教室が  
つかえない  
学校も  
ありました



写真提供: 共同通信社



かせつ  
商店街が  
できました

もくとうを ささげました  
わたしたちは 東日本大震災を  
わすれません



か 家ぞくて はな あ 話し合おう

|   |     |      |     |     |      |
|---|-----|------|-----|-----|------|
| 3 | こくご | どうとく | 生かつ | ずこ  | こくご  |
| 4 | 生かつ | 生かつ  | こくご | ずこ  | 音がく  |
| 5 | 学かつ | こくご  | 音がく | こくご | さんすう |

東日本大しんさいをわすれない

へいせい 23年 3月 11日  
午後 2時 46分

- ・地しん
- ・つなみ

そのときのことを  
家ぞくにきいてみよう



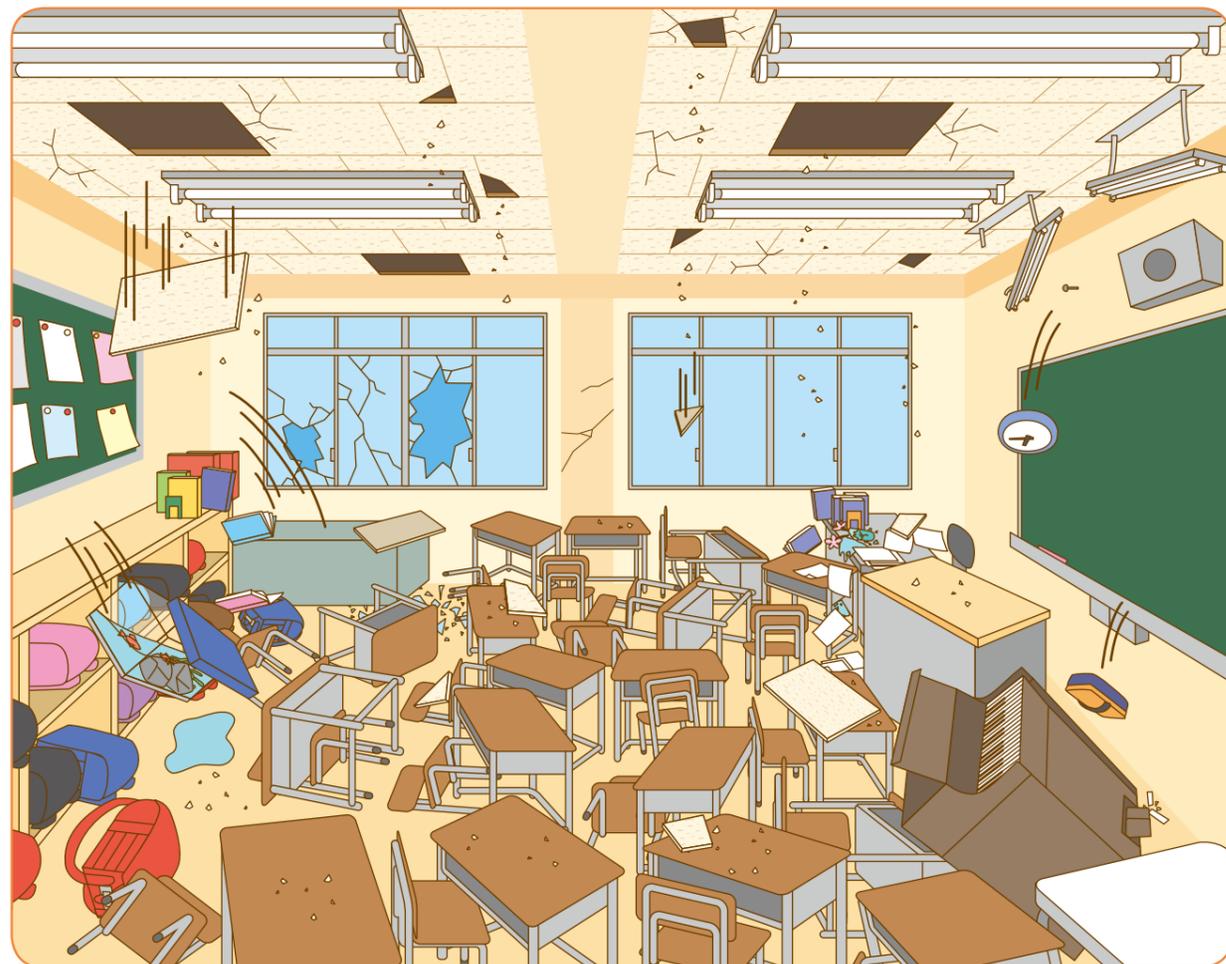
第2章  
災害について知る



どのような きげんが あるのでしょうか。



きげんを 知りましょう。



## ぼくと じしん

「あっ…… まただ。」

じしんが きました。しんど6の <sup>おお</sup>大きな じしんで、  
とても こわかったです。

ぼくは、<sup>こ</sup>子どもえんの <sup>せんせい</sup>先生の おはなしを きいて  
ぜんいんで <sup>こう</sup>校ていに にげて、まとまって いました。

なん日か <sup>にち</sup>まえに、ひなんくんれんで とつぜん  
<sup>さいれん</sup>サイレンの <sup>おと</sup>音と ほうそうが なって ほんとうに  
じしんが おきたら かくれたり、にげたり  
できるように れんしゅうを しました。ぼくは、  
その ことを おもいだしました。ひなんくんれんの ときは、  
ほんとうの じしんじゃ ないので、ふつうに ひなん  
できました。でも、こんどの じしんは、こわくて  
しんじょうかも しれない。まもって くれる ばしょは  
どこだろう。どこかに はしって にげるしか ない。  
もっと つよくて 大きな じしんが きたら、こんどは  
おうちも どうろも かいしゃとかも こわれて しまうかも  
しれないよ。おじいちゃんとおばあちゃんとおとうさんと

おかあさんと おねえちゃんと いっしょに いる ときは、  
こわがらずに がんばって いただけるけれど、

もしも ぼく <sup>ひとり</sup>一人で いる ときに、

ぐらっ、<sup>ぱりん</sup>パリン、<sup>がちゃがちゃ</sup>ガチャガチャに なって しまったら  
どう しよう。とつても こわかったです。

しんさいから 6か月、<sup>げつ</sup>こんど 大きな じしんが きた  
ときは、<sup>ちか</sup>近くに おかあさんとか となりの おばちゃんとかが  
かならず いるから、きっと <sup>だい</sup>大じょうぶだよ。その とき、  
ぼくは だれかの ところに いるように しよう。

そう おもったら こわく なくなつた。じしんが きても  
うまく にげて、こえを だして げんきに して しようと  
おもいます。

(作文宮城 60号 特別編『あの日の子どもたち』より)



津波は <sup>かいてい</sup>海底の <sup>じしん</sup>地震によって <sup>なみ</sup>おこる波です。  
 どのような波なのでしょう。

<sup>りくじょう</sup>陸上では <sup>じてんしゃ</sup>自転車より **はやい**



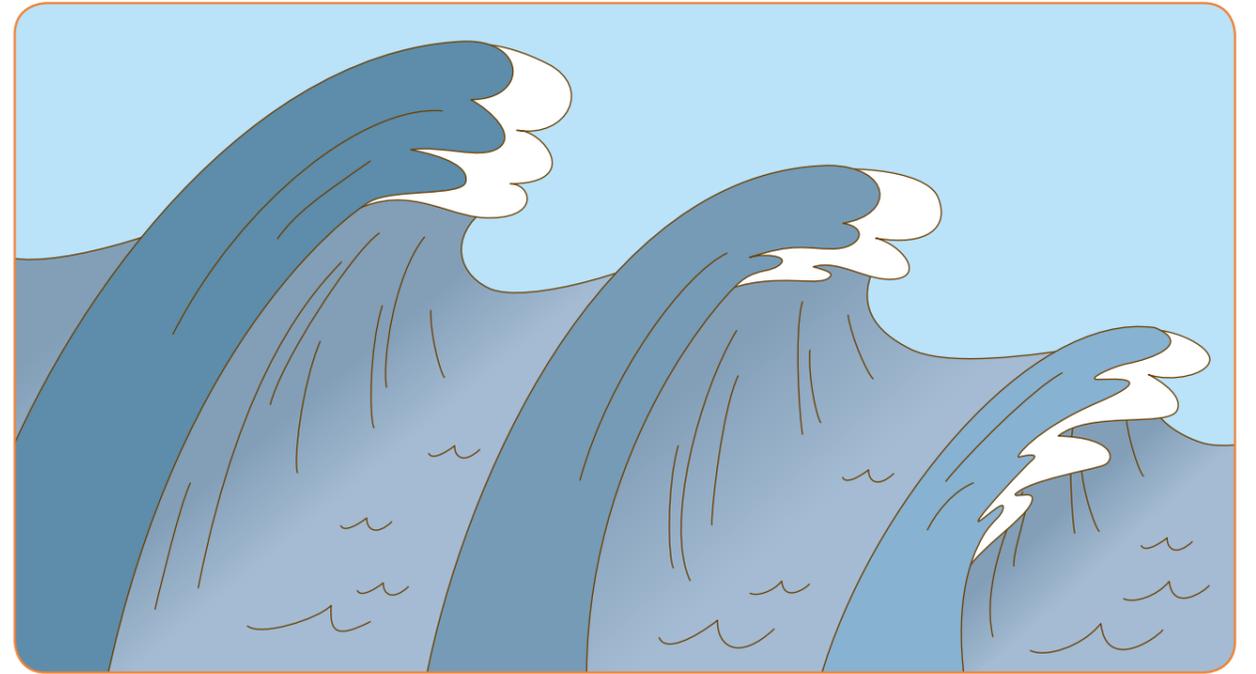
<sup>いえ</sup>家や <sup>ふね</sup>船や <sup>くるま</sup>車をおしながす



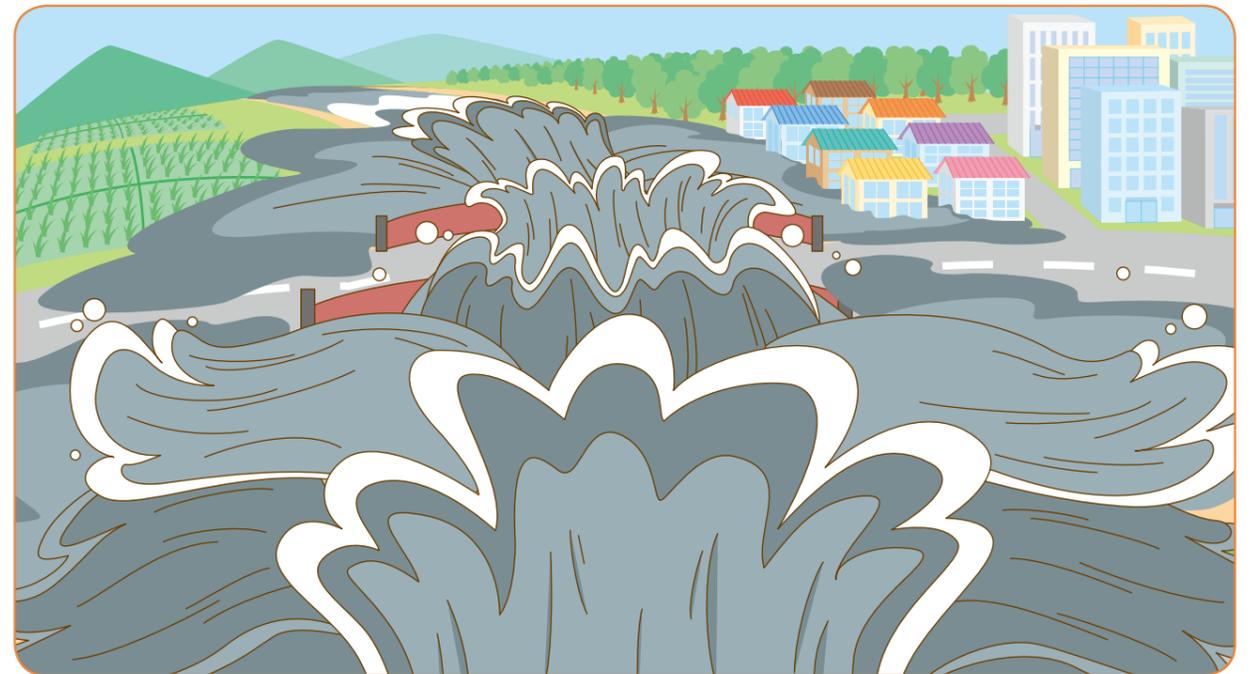
津波の <sup>ちから</sup>力は **とても** <sup>つよ</sup>強いよ。  
 ひざぐらいの <sup>たか</sup>高さの津波でも  
 ながされてしまうよ。



<sup>かえ</sup>くり返し **やってくる**



<sup>かわ</sup>川を **さかのぼる**



## こわかった <sup>だい</sup>大しんさい

おやつを たべる じゅんびを していると

<sup>がしやん</sup>ガシャン <sup>がしやん</sup>ガシャン

<sup>か</sup>花びんが おっこちて 2つに われちゃった

みんなが たいせつに して いた 花びんなのに

<sup>がつ</sup>3月 <sup>にち</sup>11日

わたしは いっけいしまほいくしょの さくらぐみだった

こうすけくんが

「いやだよ いやだよ」

と ないて <sup>すとうぶ</sup>ストーブの すみに かくれた

わたしも こわくて

つくえの まわりを うろうろ うろうろ した

「<sup>おお</sup>大きい <sup>した</sup>じしんだから つくえの 下にもぐりなさい」

と えいこ<sup>せんせい</sup>先生に いわれた

ぐらぐら ぐらぐらと よこに ゆれて いた

<sup>うえ</sup>上 下 上 下 よこ よこと ゆれた

いやだな はやく おわれば いいのになあ

ずっと ずっと つづいて いた

<sup>ちゅう</sup>中おうちょうみんかんの 2かいに のぼって いる とき

下を <sup>み</sup>見たら ちょっと ちゃいろい <sup>みず</sup>水が <sup>はい</sup>入って きた

<sup>あし</sup>足に ぱしゃぱしゃ かかった

いやだ いやだ こわいよう

3かいに ついたら 足が びしょびしょ

3かいの まどから ほいくしょを 見たら

ほいくしょが ぜんぶ なくなっていた

中おうちょうみんかんも ながされたら どう しよう

とても こわくて しんぱいだった

よるが 2かい すぎて

つぎの あさ じえいたいの

<sup>へりこぶたあ</sup>ヘリコプターが きて くれた

よかった たすかった

(作文宮城 60号 特別編

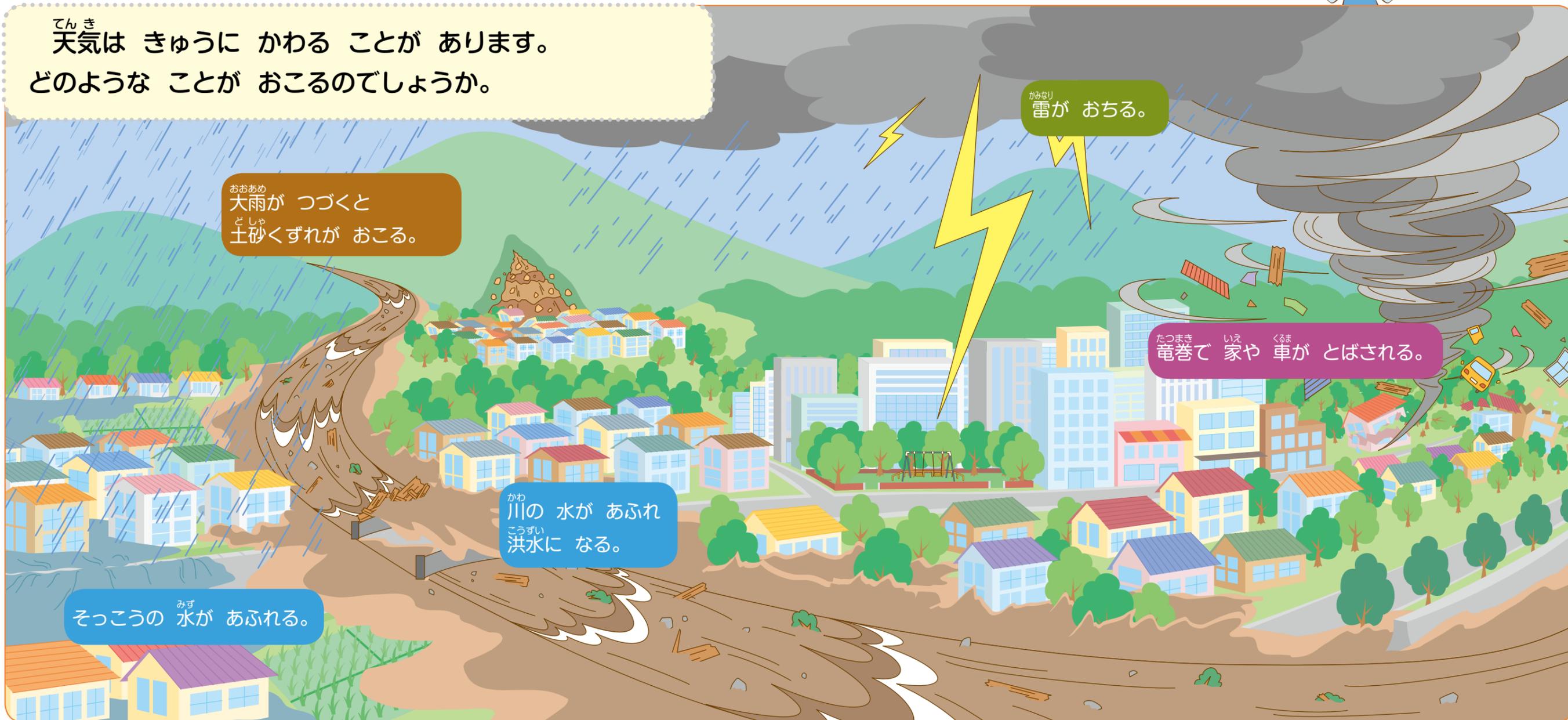
『あの日の子どもたち』より)



天気が きゅうに かわる ときは、  
くろい くもが あらわれるよ。



てんき 天気は きゅうに かわる ことが あります。  
どのような ことが おこるのでしょうか。



おおあめ 大雨が つづく  
としや 土砂くずれが おこる。

かみなり 雷が おちる。

たつまき 竜巻で 家や 車が とばされる。

かわ 川の 水が あふれ  
こうずい 洪水になる。

みず 水が あふれる。

こうずい 洪水



写真提供：宮城県河川課

どしや 土砂くずれ



写真提供：国土交通省砂防部

かみなり 雷



たつまき 竜巻

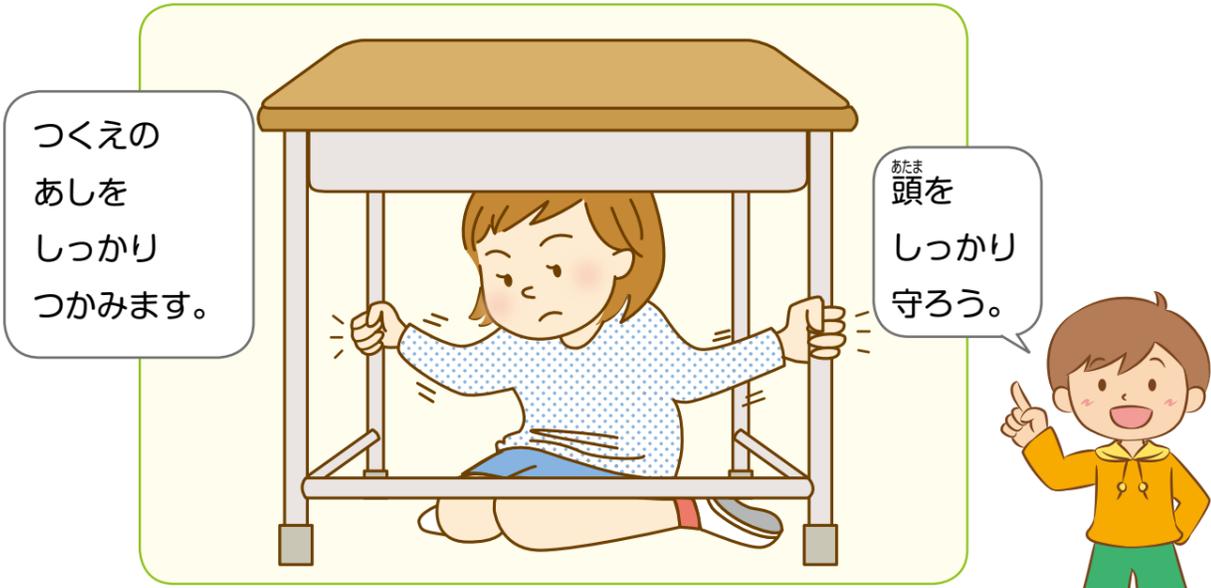


写真提供：栃木県塩谷南那須教育事務所

# 第3章 1 学校に いる ときに 地震が おこったら

どのようにして、自分の 身を 守れば よいのでしょうか。

## ● 教室では



## ● 校庭や ろうかでは



「おちて こない」、「たおれて こない」、「いどうして こない」  
場所で 身を 守りましょう。

ゆれが おさまったら、先生の 話を よく 聞いて  
避難しましょう。

## 避難の ときの やくそく おはしも

### お さない



### は しらない



### し やべらない



### も どらない



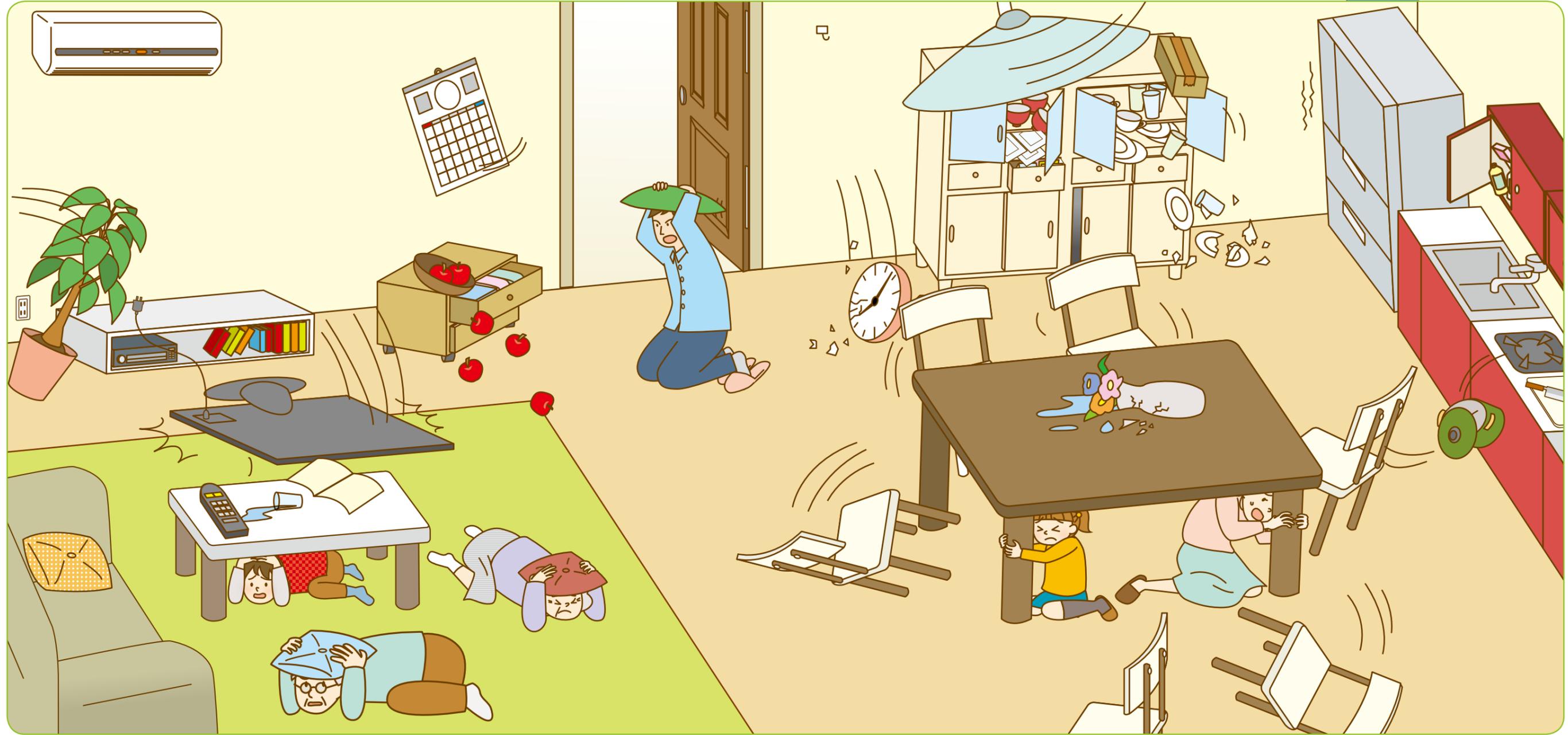
安全な ところや きけんな ところを たしかめて おきましょう。

第3章 自分の 身は 自分で 守る

# 第3章 2 いえ 家に いる ときに 地震が おこったら

どのようにして、自分の身を守ればよいのでしょうか。

ひごろから 安全な 場所を たしかめて おこう。



おちついて 行動しましょう。  
「おちて こない」、「たおれて こない」、「いどうして こない」  
場所で 身を 守りましょう。

ゆれて いる ときに、  
きゅうに 外に とびだすのは  
きけんだよ。



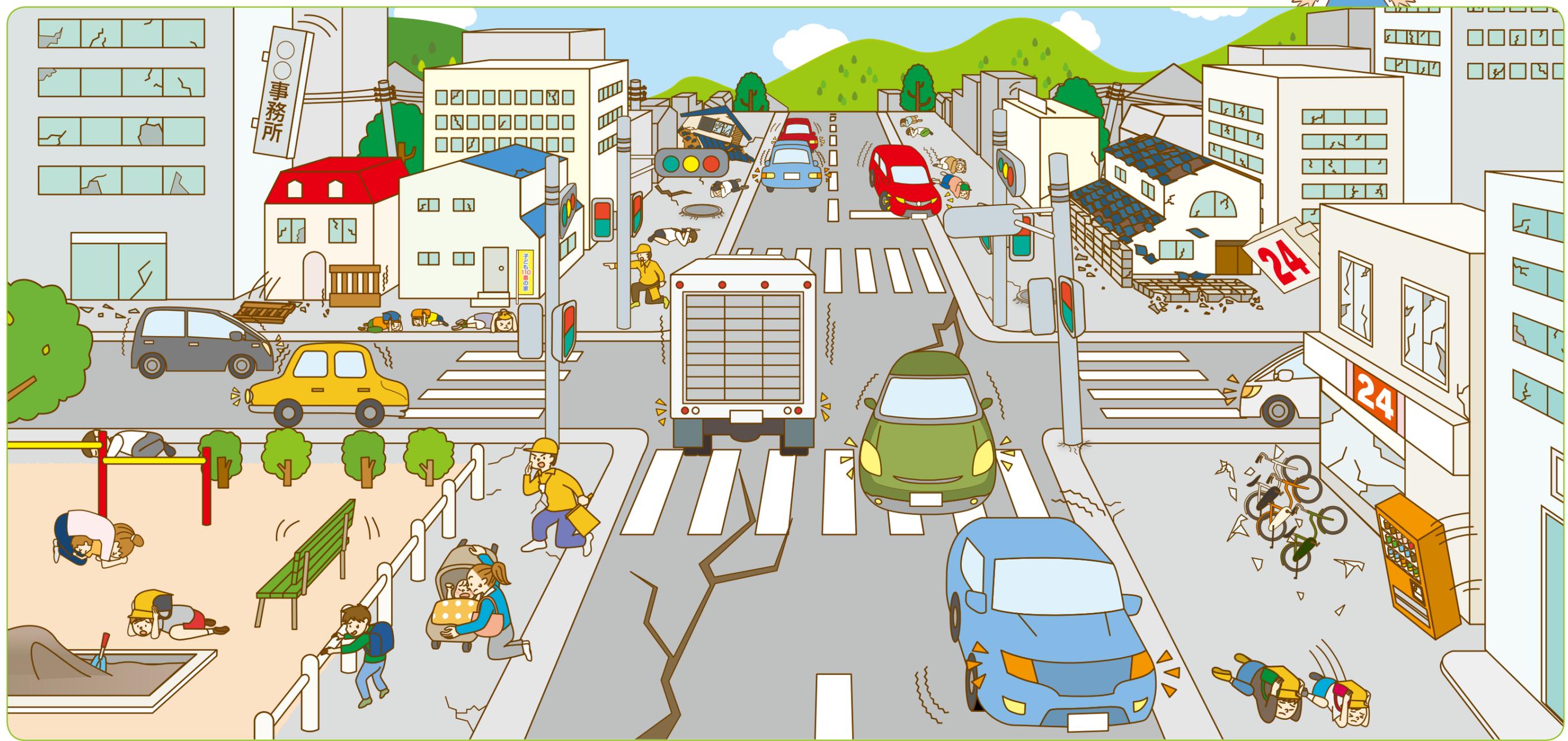
第3章 自分の身は自分で守る

# 第3章 3 そと いる ときに 地震が おこったら

どのようにして、自分の身を守ればよいのでしょうか。



ランドセルなどで  
頭を守ろう。



おちついて 行動しましょう。  
「おちて こない」、「たおれて こない」、「いどうして こない」  
場所で 身を守りましょう。

きけんそうな ところには 近づかないように しよう。  
近くに いる 人に 助けて もらおう。



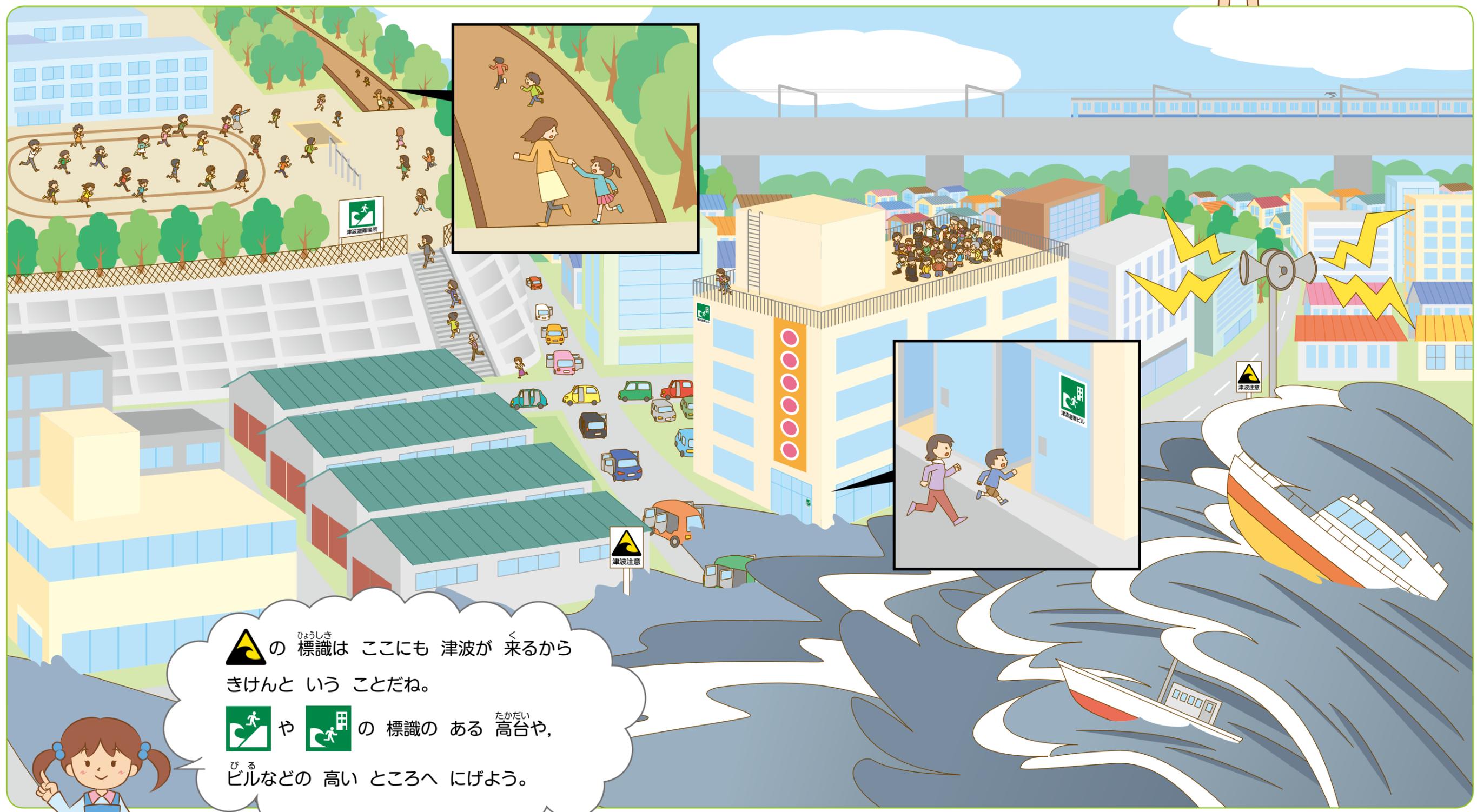
第3章  
自分の身は自分で守る

# 第3章 4 うみ ちか 海の 近くに いる ときに 地震が おこったら

つなみ 津波から どのように して、自分の 身を 守れば よいのでしょうか。



ゆれを かんじたら より 高い ところへ にげよう。



ひょうしき の 標識は ここにも 津波が 来るから きけんと いう ことだね。  
や の 標識の ある 高台や、ビルなどの 高い ところへ にげよう。



第3章 自分の 身は 自分で 守る



5 黒い雲が近づいてきたら

どのようにして、自分の身を守ればよいのでしょうか。

大雨 すぐに水辺からはなれる！



雷 たてものや自動車のなかへ！



突風 じょうぶな たてもののなかへ！



安全な場所に避難する。

大雪のときはやねの下に近づかない！



すべりやすいので、走らない。